


## 世界史 B 問題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題用紙は 22 ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入すること。
7. 解答は楷書で丁寧に記述すること。判読できない場合には誤答とみなすことがあるので、注意すること。
8. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
9. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
10. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。ただし、この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
11. 試験時間は 60 分である。
12. マーク記入例

良い例	悪い例
	

〔 I 〕 次の文章 A、B をよく読み、設問 1 ～ 5 に答えなさい。

A 人類文明発祥の地であるオリエントは、エジプト・メソポタミアとその周辺などを含む地域をいう。かつて  が「エジプトはナイルのたまもの」と述べたように、エジプトではナイル川流域において豊かな農業が行われ、前 3000 年頃には統一国家が出現した。東西は砂漠、北は海、南はナイル川の急湍(流れの速い浅瀬)に囲まれているため周辺民族の侵入を受けにくく、エジプトではファラオによる安定した統治が行われた。メソポタミアでは前 2700 年頃までにシュメール人の都市国家が数多く形成され、これらの都市では神権政治<sup>(1)</sup>が行われ、その中心部には守護神をまつる神殿があった。また、メソポタミアはその開放的な地形のため、周辺地域から遊牧民や山岳民の侵入が繰り返され、国家の興亡が激しかった。例えば、前 17 世紀半ば頃に小アジアに強力な国家を建設したヒッタイト人は、この地に遠征してバビロン第 1 王朝(古巴ビロニア王国)を滅ぼし、さらに前 13 世紀の初頭にはシリアにも進出してエジプトのラメス(ラメセス)<sup>(2)</sup>2 世と抗争した。

地中海東岸のシリア・パレスチナ地方では、セム語系の諸民族が活動を展開した。なかでも  人は前 1200 年頃よりダマスカスを拠点に内陸貿易で活躍し、また地中海沿岸にビブロス・ティルスなどの都市国家を築いていたフェニキア人は、クレタ・ミケーネ文明が衰えた後を受けて地中海貿易を独占し、多くの植民市を建設した。ミケーネ文明の諸王国が滅亡すると、王国内に居住していたギリシア人は新たな定住地をもとめて移動した。これらの人々は方言の違いから、イオニア人・ 人・ドーリア人にわかれた。

オリエントは、前 7 世紀前半にアッシリア王国によってほぼ統一された。首都ニネヴェに大図書館を建設したことで知られる  王のときにその版図は最大となったが、重税と圧政によって服従民の反抗を招いてまもなく崩壊した。

**B** 古代ギリシアでは前8世紀に入ると、各地で有力貴族の指導のもとにポリスが建設された。ポリスはそれぞれ独立した国家で、分立し、統一されることはなかったが、ポリス間の経済的・文化的交流はさかんに行われており、ギリシア人であることの共通意識はきわめて強かった。また、有名な神域などを中心に近接するポリスが神殿の維持と祭典を共同で行うために隣保同盟を結ぶこともあった。

このようなポリスのうちアテネでは、前8世紀半ばに王政から貴族政に移行し、E と呼ばれる役人が選ばれてポリスを統治するようになった。その後、ドラコンが立法者として現れ、法律が成文化され、またソロンによる改革やペイシストラトスによる僭主政治の確立を経て、クレイステネスの改革によって民主政の基盤が確立した。<sup>(3)</sup>アテネの民主政は前5世紀半ば頃に将軍ペリクレスの指導のもとで完成され、18歳以上の成年男性市民全員で構成された民会が立法・行政・司法上の最高機関となり、直接民主政が実現した。

やがてギリシアのポリスは相互の対立を経て衰退した。その後フィリッポス<sup>(4)</sup>2世の子であるアレクサンドロス大王の遠征によってギリシア人たちはシリアやエジプト、バクトリアを含む広大な領域を支配下におさめた。この遠征によってギリシア文化がオリエントに伝わり、ヘレニズム文化として発展した。またアッティカ方言をもとに、各地の方言がまじってF と呼ばれるギリシア語が共通語となった。

問 1 文中の空欄A～Fに最も適切な語句を解答欄に記入しなさい。

問 2 下線(1)に関連して、最古の円筒印章や、文字が発見された都市国家の名称を解答欄に記入しなさい。

問 3 下線(2)に関連して、シリアの覇権をめぐるこの争いが引き分けに終わった後、両国の間で講和条約が結ばれた都市の名称を、解答欄に記入しなさい。

問 4 下線(3)に関連して、僭主の出現を防ぐための市民の投票制度において、人物の名前を記すために用いられた陶片は何と呼ばれたか、解答欄に記入しなさい。

問 5 下線(4)に関連して、前5世紀前半に古代ギリシアを二分して争われたペロポネソス戦争に対する反戦劇の名称を、解答欄に記入しなさい。

〔Ⅱ〕 次の文章をよく読み、空欄(1～10)に入る語句として最も適切なものを解答欄に記入しなさい。

カール大帝がフランク王国を統一し支配することによって、ゲルマン民族の大移動以来の混乱は終結した。しかし、9～11世紀の第2次民族大移動は、再び西ヨーロッパに揺さぶりをかけた。その中心をなしたのがマジヤール人と  であった。 はノルマン人(「北方の人」とも称され、ノール人・デーン人・スウェード人の3部族からなっていた。この時代、西ヨーロッパの主要都市はいずれもこれらの部族の脅威にさらされた。略奪行為とならんで定住も進み、セーヌ河口一帯に定着したデーン人は、ノール人出身の  を首領として西フランクを脅かし、911年にシャルル3世からその地の領有を認められ、ノルマンディー公国が誕生した。

デーン人の侵入は、七王国がしのぎを削っていたイギリスを刺激し、829年ウェセックス王  によって統一された。しかし、それも長くは続かず、9世紀後半にはウェセックス以外の王国はすべて屈服した。ウェセックス王のアルフレッド大王は、諸勢力をとりまとめて反撃に転じ、デーン人との協定によってイングランド南西部の独立を守った。

10世紀末になりデーン人は再び侵入を始めた。アングロ＝サクソン王国は宥和をはかったが、1016年、デンマーク王子  によって征服された。彼はイングランド王に即位しデーン朝を成立させた。彼は、デンマーク王位も継承し、ノルウェー王も兼ね、さらにはスウェーデンやスコットランドの一部も支配して一大海上帝国を建設した。この帝国は  の死後、崩壊し、イングランドはアングロ＝サクソンの王家によって取り戻され、エドワード懺悔王が治めた。エドワードが亡くなってからは、義弟のウェセックス伯ハロルドが王を名乗り、北部のヨークに侵入したノルウェー王ハーラルに立ち向かい、これを撃破した。その間に、ノルマン騎士団を率いたノルマンディー公ウィリアムがイングランド南岸のペヴェンシーから上陸を始めた。それにたいしてハロルドは南下してこれを討とうとしたが、逆にノルマンディー公ウィリアムに  の戦いで敗れ、死亡した。1066年、ノルマンディー公ウィリアムはウィリアム1世とし



てノルマン朝を開いた。これを「ノルマンの征服」という。

スウェード人は9～11世紀には北西ロシアに進出し、スラヴ人やフィン人との交易や略奪を行っていた。スウェード人の一派であったルーシはリューリクを首領として、9世紀にノヴゴロド国を、ついで [ 6 ] を建設し、それがロシアの起源となった。

デンマーク・スウェーデン・ノルウェーの北歐3国はこの間にキリスト教化し、国家の形態を整えていったものの、11世紀から14世紀初頭までは、国内、国外を問わず争いごとや動揺が絶えなかった。14世紀の半ばになり、デンマークではヴァルデマール4世の統治の時代に国内情勢が安定した。ノルウェー王に嫁いだ王女 [ 7 ] は、父と夫の亡き後、デンマークとノルウェーの実権を共に手中にし、さらにスウェーデンでも貴族の依頼を受けて王を退け、これら3国を支配した。この3国の連合は、1397年にスウェーデンのカルマルでポンメルンのエリク7世を共同の王にすることを承認させたことから、カルマル同盟と呼ばれている。1523年にグスタフ1世によってスウェーデンはこの連合から独立することになったが、デンマーク・ノルウェーの2国間の連合は1814年まで維持された。

宗教改革が広がると、ドイツを中心として三十年戦争が起こった。この戦争は、プロテスタント側とカトリック側に分かれていた諸侯たちのあいだの対立に端を発するもので、やがてスウェーデンとデンマークをも巻き込んでヨーロッパ全土に拡大した。デンマークはルター派陣営に属し、イギリスとオランダの支援を受けてドイツに攻め込んだ。カトリックの側ではヴァレンシュタインを司令官とした皇帝軍がスペインを後ろ盾とした。1629年に講和にいたったものの、スウェーデン国王 [ 8 ] は、翌年、ドイツへの侵入を開始した。スウェーデンは、宗教上はプロテスタントであったものの、カトリックであるフランスに支えられて、北歐・バルト海沿岸での覇権に、強い関心を抱いたのである。しかし、 [ 8 ] は1632年、ライプチヒ近郊の [ 9 ] で戦死した。1644年からようやく講和会議が開始され、1648年ウェストファリア条約によって戦争は終結した。

三十年戦争のあいだにスウェーデンは軍事活動と重商主義政策によって国力を

増し、ヨーロッパのなかでも大国となっていた。しかし、北方戦争において  
10 がロシアやデンマークなどと戦い続けていたため、やがて国力が低下  
した。その後 1718 年から 1771 年までスウェーデンは新たな憲法に基づき、4 身  
分からなる身分制議会をもって、二大政党制による民主政治を行った。この時代  
を「自由の時代」と呼ぶ。

〔Ⅲ〕 次の文章をよく読み、下線部(1)～(10)に関する問 1～10 に答えなさい。

20世紀が石油の世紀であったとするならば、21世紀は水の世紀になるともいわれている。人間の社会生活はもとより、生命の維持にも大量の安全な水は欠かすことができない。それは、有史以来変わることはない事実である。大きな河川・湖沼の分布と古代文明の分布に相関が見られるのは必然とも言える。インダス川を中心に発展したインドに目を向けてみよう。

インドは古代文明が興った地域の一つであり、現代ではその存在感をますます高めている地域である。そこには多くの民族が流入し、多様な宗教が共存・対立した。大きな河川を含む広大なこの地域は、様々な勢力の栄枯盛衰があった。

グプタ朝やムガル帝国に代表されるように、比較的長期にわたって繁栄したのもあったが、これらも最終的には滅亡した。滅亡は内的要因が主となることもあったが、外的要因が主となることもあった。ヨーロッパ諸国による浸食は後者の一例である。

例えば、イギリスは対抗する勢力を封じ込めながら、インドを支配した。しかし、その後の二つの世界大戦はインドとその周辺地域に大きな変化を与え、多くの国々の独立をもたらした。そうして、今日の私たちが知るインドという地域が形成されていったのである。

もともと、インドをはじめとしたすべての社会は常に進行中のプロセスにある。残念なことに国家的、宗教的、あるいは部族的対立が今でも進行中である社会もある。冒頭であげた「水」という資源が新たな対立の火種とならないように、私たちは歴史を学び続けなければならない。



問 1 下線部(1)「古代文明」の記述として**適切でないもの**を次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① インダス川中流域のパンジャブ地方のハラッパー遺跡では東西 200m、南北 400mの城塞が発見されている。
- ② インダス川下流域のシンド地方のモエンジョ＝ダーロ遺跡では整然とした都市計画に基づき、基盤目状に道路が整備されていた。
- ③ インド西部のグジャラート州のロータル遺跡では船溜まり跡が発見され、メソポタミアとの交易に使用されたことが、出土した印章に刻まれたインダス文字の解読から明らかになった。
- ④ インド西部カッチ湿原のドーラヴィーラー遺跡では石造建築や水利施設などが発見されている。

問 2 下線部(2)に関連して、「アーリヤ人」についての記述として**適切でないもの**を次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① インド＝ヨーロッパ語系のアーリヤ人は、中央アジアからミンタカ峠をこえてカシミール地方に進入した。
- ② アーリヤ人は先住農耕民族をダーサやダスユと呼び、ときに彼らと戦い、また共存した。
- ③ アーリヤ人と先住民がまじわって社会が成立する過程で、身分的上下観念であるヴァルナ制が生まれた。
- ④ 前 1000 年頃にアーリヤ人は肥沃なガンジス川上流域へ移動を開始し、やがて森林を開墾するのに適した鉄器を用いるようになった。

問 3 下線部(3)「宗教」に関する記述として最も適切なものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① バラモン教では、複雑な祭祀を正確に執り行うことが重視され、『リグ=ヴェーダ』をはじめとした4ヴェーダが根本聖典とされた。
- ② ヴァイシャの身分にあったガウタマ=シッダールタは仏教を開き、難解なヴェーダ祭式や、バラモンを最高位とするヴァルナ制を否定した。
- ③ ヴァルダマナは、不殺生の戒律の厳守と肉体的苦行の禁止を説くジャイナ教の始祖であり、その教えは主として商人階級に広まった。
- ④ 民間信仰や慣習を吸収しながら社会に定着したヒンドゥー教は、『アヴェスター』に基づき、シヴァ神などを中心とする多神教であった。

問 4 下線部(4)「様々な勢力」に関する記述として最も適切なものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① インダス川流域では、マガダ国がビンピサーラやアジャータシャトルの時代に強力となり、コーサラ国を併合した。
- ② インダス川流域は、ダレイオス1世の征服によってアケメネス朝の属州となった後、マケドニアのアレクサンドロス大王の支配下に入った。
- ③ アレクサンドロス大王の死後、チャンドラグプタはナンダ朝を滅ぼしてマウリヤ朝を創立し、セレウコス朝からシリアを奪った。
- ④ アショーカ王はカリンガ国を征服し、マウリヤ朝はインド全土の統一を達成した。

問 5 下線部(5)「グプタ朝」がインドを統治していた期間の出来事として**適切でないもの**を次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 鮮卑の拓跋氏がたてた北魏の太武帝が華北を統一した。
- ② 高句麗第 19 代の王である広開土王が百済や新羅を圧迫した。
- ③ ローマ帝国のテオドシウス帝が、キリスト教を国教とした。
- ④ ササン朝初代の王、アルダシール 1 世は、ゾロアスター教を国教とした。

問 6 下線部(6)「ムガル帝国」に関する記述として**適切でないもの**を次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① チンギス＝ハンの血を引くと言われるバーブルは、パーニーパットでロディー朝を破り、ムガル帝国を創始した。
- ② 第 3 代皇帝のアクバルは、アグラを首都に定め、アフガニスタンのカーブルやデカンの一部を含む北インドを統一した。
- ③ 第 4 代皇帝のジャハーンギールは、妃ムムターズ＝マハルのためにアグラ市郊外にタージ＝マハルを造営した。
- ④ 第 6 代皇帝のアウラングゼーブはデリーに首都を戻したほか、デカン地方へ自ら遠征し、帝国の版図を最大にした。

問 7 下線部(7)に関連して、ムガル帝国を滅亡に向かわせた要因の記述として、**適切でないもの**を次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 厳格なスンナ派イスラーム教に深く帰依したアウラングゼーブは、ヒンドゥー教徒と協調し、シーア派を弾圧した。
- ② アクバルの治世以降、安定した関係にあったインド西部のラージプートは、アウラングゼーブの政策に激しく抵抗した。
- ③ カビールの影響を受けたナーナクが創始したシク教はパンジャブ地方を中心に信者を増やし、ムガル帝国に抵抗した。
- ④ デカン西北部の山岳地帯では、ヒンドゥー教、とりわけバクティ信仰に帰依したマラーターがムガル帝国と対立し、シヴァージーが即位してマラーター王国を創始した。

問 8 下線部(8)「ヨーロッパ諸国」に関連する記述として、**最も適切なもの**を次の

- ①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。
- ① ポルトガルの遠征軍は 1510 年にボンベイを占領し、アジア進出の本拠地とした。
- ② イギリスは 1600 年に東インド会社を設立し、マドラスなどを基地として通商活動を展開した。
- ③ オランダは 1602 年に株式会社の形態をとる東インド会社を設立し、カルカットを根拠地に香辛料貿易の実権を握った。
- ④ フランスは 1664 年に東インド会社を創設し、ボンディシェリやシャンデルナゴルを基地としてイギリスと対抗した。

問 9 下線部(9)に関連して、イギリスのインド支配に関する記述として**適切でないもの**を次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 1857年、北インドでインド人傭兵(シパーヒー)は、名目だけの存在であったムガル皇帝を擁立して反乱を起こしたが、1858年にムガル皇帝は流刑に処せられ、ムガル帝国は名実共に滅亡した。
- ② 1858年、イギリスは東インド会社を解散し、インドの直接統治に乗り出した。1877年にはヴィクトリア女王がインド皇帝を兼ねることを宣言し、インド帝国が成立した。
- ③ 1905年、インド総督であったカーゾン**は**ヒンドゥー教徒の多い東ベンガルと、イスラーム教徒の多い西ベンガルに分割するというベンガル分割令を施行し反英抵抗運動の分断をはかった。
- ④ ティラクらの反英闘争を主張する急進派は国民会議の主導権を握り、1906年、英貨排斥・スワデーシ・スワラージ・民族教育からなるカルカッタ大会4綱領を決議した。

問10 下線部(10)「独立」に関する記述として適切でないものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① インドでは、統一インドを主張するガンディーとパキスタンの分離・独立を求める全インド＝ムスリム連盟のジンナーが対立した。ガンディーが急進的ヒन्दゥー教徒に暗殺されたため、イギリス連邦内の自治領としてのインド連邦とパキスタンの2国に分かれて独立した。
- ② イギリスはロシアの南下に対抗し、3回にわたってアフガニスタンと交戦した。第2次アフガン戦争の結果、事実上イギリスの保護国となったアフガニスタンであったが、1919年の第3次アフガン戦争によって独立を達成した。
- ③ スリランカ(セイロン)は1948年にイギリス連邦内の自治領として独立し、1977年の憲法改正によって、翌年、スリランカ民主社会主義共和国となった。しかし、その後シンハラ人を中心とするスリランカ政府軍とタミル人を中心とする武装勢力による内戦が始まり、それは2009年まで続いた。
- ④ インドとパキスタンの間ではカシミール地方の帰属などを巡り軍事衝突が繰り返された。1971年、東パキスタンはインドの協力をえて、首都をダッカに置くバングラデシュとして事実上の独立を果たした。



〔Ⅳ〕 次のA～Jをよく読み、下線(1)～(4)のうち適切でないものを一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

A 中国では早くから、黄河・長江流域に粗放な農耕が始まっていた。黄河の中・下流域の黄土地帯の住民は、粟などの雑穀を栽培し、家畜を飼育し、彩文土器(彩陶)を用いる新石器文明を形成した。(1)これが中国最古の文明の黄河文明である。この黄河文明は、出土土器の特徴の違いにより、彩陶を特徴とする前期の仰韶文化と、黒陶を特徴とする後期の竜山文化に区分されている。(2)彩陶は日常の煮炊きに用いられたが、黒陶は公的な場面のための特殊な土器として用いられた。(3)また近年、長江の下流域にも前4000年以前にさかのぼる古代文明が存在していたことが明らかにされた。この長江文明の遺跡のひとつである浙江省の河姆渡遺跡からは彩陶・黒陶とともに木造の住居跡や稲粃が出土している。(4)

B チベット系といわれる犬戎による首都鎬京の攻略を背景にした周の東遷以降、(1)およそ550年におよぶ戦乱の時代は春秋・戦国時代とよばれる分裂の時代であった。しかしこの時代は、激しい競争の中でそれぞれの地域に中央集権的な政治体制が成長し、農業技術や貨幣経済が発展し、新思想もあらわれて、のちの統一国家の基礎が作られた重要な時代であった。春秋時代中期以降には牛に鉄製の犁を引かせる、いわゆる牛耕が行われるようになった。(2)また富国策によって商工業が発展すると、貝貨とともに青銅貨幣が用いられるようになり、刀銭・布銭・蟻鼻銭・環銭(円銭)が春秋・戦国時代に鑄造された。(3)さらに、この時代には孔子を祖とする儒家思想、血縁をこえた無差別平等の愛を主張する性善説の孟子や、天体の運行と人間生活との関係を説いた陰陽家の鄒衍など多様な分野で思想・学問の基礎が築かれた。(4)

C 衛の公子であった商鞅による政治改革で国力をつけた秦は、東周および齊・<sup>(1)</sup>楚・燕・韓・魏・趙の6国を征服して前221年に中国の統一をなしとげた。始皇帝は、郡県制を全国に施行し、<sup>(2)</sup>文字・貨幣・度量衡や車軌の長さを統一して中央集権化を推し進める一方、体制を固める政策として思想・言論統制を行い、占いに関する書物を焼き捨てさせた。またこの頃勢力を伸ばしていたオルドスの匈奴を攻撃し、<sup>(3)</sup>以後の侵入を防ぐために戦国時代に燕・趙などが築いていた長城を修復・連結した。このような急激な改革や度重なる遠征および阿房宮や驪山陵造営などの大土木工事は、<sup>(4)</sup>民衆の生活を大いに苦しめ、始皇帝の死後、二世皇帝胡亥が即位したが、秦は統一後わずか15年で滅んだ。

D 武帝は、諸侯に対して推恩の令を出して勢力をいっそう弱め、また地方長官の推薦による官吏の任用をはかった。<sup>(1)</sup>この制度を郷举里選と呼ぶ。さらに初めて元号を定めるなど、皇帝の権力を強化して、中央集権体制を確立した。北方の匈奴に対しては、劉邦以来の消極策をあらため、將軍の衛青、霍去病らに命じて数回にわたり攻撃を加え、<sup>(2)</sup>苦戦のすえに匈奴をゴビ砂漠の北に追いやった。漢帝国はそのあとも勢力をのぼし、オルドスに敦煌郡、河西地方に朔方郡など4郡をおき、<sup>(3)</sup>軍隊を駐屯させて、匈奴の侵入に備えた。また武帝は即位後まもなく張騫を西方の大月氏に派遣し、匈奴を挟み撃ちにする約束をとりつけようとはかったが、<sup>(4)</sup>その目的は果たせなかった。

E 前漢の初期には儒・道・法の諸家の学説が並んで国家の統治理念とされていた。武帝は礼と徳を重んじる儒学を公式の学問として認めた。<sup>(1)</sup>董仲舒はそれに貢献し、中央の太学では五経博士が設置された。儒学の国教化は、その教説の固定化を招き、秦代に失われた古書の復元や経典の注釈に重きをおく訓詁学が馬融・鄭玄によって発展した。<sup>(2)</sup>漢の時代には優れた歴史書が編纂された。武帝の保護のもとに司馬遷が編んだ『史記』と、<sup>(3)</sup>兄の班超の志を継いで班固が編んだ『漢書』はともに紀伝体で書かれ、正史の模範とされている。後漢の末に、社会不安が蔓延し、疫病が流行った頃に、張角が指導した太平道と、張陵・張魯が指導した五斗米道などの宗教結社が生まれ、<sup>(4)</sup>農民たちの支持を得た。

F 漢帝国が崩壊する端緒となった黄巾の乱は、張角によって起こされた。その後、地方での反乱が頻発したが、後漢の政府はもはや治めることができず、豪族に官位を与えて治めようとした。<sup>(1)</sup> これらの豪族たちをとりまとめることに成功したのは、曹操・劉備・孫権であった。曹操は洛陽を都として皇帝の座につき、魏が成立した。<sup>(2)</sup> 劉備は諸葛亮を補佐として、蜀・湖北を領有し、成都を都として皇帝となった。<sup>(3)</sup> 孫権は長江下流の豪族であり、父と兄を継いでこの地域に勢力を強め、建業を都とした。<sup>(4)</sup>

G 唐の時代の文化は国際性に特徴づけられるが、それを顕著に示すものが、唐代三夷教と呼ばれる、祆教(ゾロアスター教)・景教(ネストリウス派キリスト教)・マニ教に加え、イスラーム教の流入であった。<sup>(1)</sup> また、この頃、唐詩と呼ばれるように詩作がさかんに行われ、科挙でも詩文の才能は重要視された。<sup>(2)</sup> 文章では、四六駢儷体が強く尊重され、優美な文体が求められたが、他方で形式にとらわれない自由さも見られるようになった。<sup>(3)</sup> 盛唐の時代には、詩仙・詩聖と呼ばれた李白・杜甫が活躍した。中唐では、個性豊かな詩風が生まれ、韓愈・柳宗元・白居易などが代表的である。特に韓愈と白居易は、四六駢儷体を廃することを主張し、古文へ戻ることを強く説いた。<sup>(4)</sup>

H 紅巾の乱のさいに武将として参加した朱元璋は、地方の貧農出身で、かつて僧侶であった。<sup>(1)</sup> 彼は江南地方の穀倉地帯を支配し、その経済力を支えとして周りの群雄を勢力下に入れた。1368年、金陵を都とし年号を洪武として明を建国した。洪武帝は君主独裁による中央集権体制をめざした。中央政府では皇帝の権力強化に向けて政治の最高機関である中書省とともに丞相を廃止し、その下にあつた実務機関の六部(吏・戸・礼・兵・刑・工)を、皇帝の直属とした。<sup>(2)</sup> また、新たに彼は内閣大学士をおき、軍事を統括する五軍都督府や、監察機関の都察院をいずれも皇帝の直属においた。<sup>(3)</sup> 洪武帝は、布政使(行政)、都指揮使(軍事)、按察使(監察)を地方に直属としてもうけ、自らの権限を強化した。<sup>(4)</sup>

I 洪武帝は後継者であった皇太子の亡きあと、その子である朱允炆を後継者と<sup>(1)</sup>した。これがのちの建文帝となった。建文帝は側近たちにしがたい、諸王の権限を抑圧する政策をとった。これに燕王朱棣が反発し、建文帝に近い側近たち<sup>(2)</sup>を排除するために挙兵し、金陵を攻め、永楽帝として帝位に就いた。永楽帝の死後、宦官が勢力を伸ばし、官僚のあいだでの争いも増え、内政、外交、共に停滞した。永楽帝の時代に支配下にあったベトナムも、この時期には独立した。また、北からはモンゴル、東南からは倭寇による侵入にも悩まされた。これを北虜南倭と呼ぶ。<sup>(3)</sup>15世紀中頃現れたダヤン=ハンによってタタールは勢力を強め、その孫エセン=ハンによってさらに明をおびやかすようになった。<sup>(4)</sup>その勢力は、1550年に北京を包囲するまでにもなった。

J 中国東北部で勢力を伸ばした女真族の清は、明の滅亡に乗じて長城の東端の<sup>(1)</sup>山海関を突破し、呉三桂らとともに李自成を破って北京を占領し、中国全土へと支配を広げるようになった。清は、統治にあたって、反清的言論に対しては厳しく弾圧する一方、科挙・官制などにおいては明の制度をほぼ受け継いだ。<sup>(2)</sup>康熙帝は学問を奨励し、また『康熙字典』『古今圖書集成』などの大規模な編纂事業を興して学者や文化人を優遇した。清が鄭氏一族を降伏させ台湾を領土として支配が安定すると、海禁政策が緩められ、海上貿易が盛んになった。<sup>(3)</sup>18世紀半ばになると乾隆帝は、海禁政策を解除し、広州・泉州などの港市におけるヨーロッパとの交易を承認した。また清は、イエズス会の宣教師を技術者としても重用した。例えば、暦法や大砲鑄造などを伝えたベルギー出身のフェルビーストや中国最初の実測地図の作成に関与したフランス出身のブーヴェ<sup>(4)</sup>などはその例である。



〔V〕 次の文章(イ)および(ロ)をよく読み、設問に答えなさい。

(イ) 以下のA～Fに関する記述の中で、適切ではない文章の記号①～④を解答欄にマークしなさい。

**A** 2001年9月11日、ニューヨークの世界貿易センタービルやワシントン近郊の国防総省に航空機を突入させるテロ事件が発生した。

- ① このテロ事件への対抗策として、アメリカ合衆国はアフガニスタンへの空爆など対テロ戦争を行った。
- ② アメリカ合衆国のブッシュ大統領は、アフガニスタンのターリバーン政権の保護下にあるアル＝カーイダという組織が事件の実行者であるとした。
- ③ アメリカ合衆国は2003年にはイラク戦争を起こし、サダム＝フセイン政権を打倒した。
- ④ 共和党のブッシュ政権はテロ事件の首謀者として、オサマ＝ビン＝ラディンを殺害した。

**B** 2009年4月アメリカ合衆国のオバマ大統領はプラハで演説を行い、核兵器の廃絶を呼びかけた。

- ① ソ連が崩壊した後、今でも、カザフスタンとベラルーシには核兵器が置かれたままになっている。
- ② 世界では核兵器だけでなく他の大量破壊兵器の軍縮への取り組みもあり、1993年にはすでに化学兵器禁止条約が締結されていた。
- ③ 1990年代には核兵器保有国が増加し、インドやパキスタンが核兵器を持つに至った。
- ④ 通常兵器の軍縮の事例として、1997年に対人地雷全面禁止条約が調印されたことが挙げられる。

**C** 1971年にはアメリカ合衆国の貿易収支が赤字になり、ドルの金兌換停止が発表され、世界に衝撃を与え、経済だけでなく社会にも大きな影響を与えた。

- ① 1973年に先進工業国の通貨は変動相場制に移行し、世界経済はアメリカ合衆国・西ヨーロッパ・日本の三極構造に向かいはじめた。
- ② ドル＝ショックの後にはオイル＝ショックが起き、先進工業国の好景気は終わりを告げ、日本もその後5年以上立ち直れなかった。
- ③ 1970年代を通じて女性の社会進出が進み、1979年に国連総会で女性差別撤廃条約が採択された。
- ④ 1979年イランでは革命が起き、宗教指導者ホメイニを中心とするイラン＝イスラーム共和国が成立した。

**D** アメリカ合衆国は第二次世界大戦後の世界で主導的役割を果たしたが、冷戦後の世界の動向にも極めて大きな影響を与えている。

- ① 冷戦終結と前後して、東ヨーロッパ諸国は次々と社会主義から離脱した。現在でも社会主義を唱えているのは北朝鮮やキューバなど少数の国々に限られている。
- ② 冷戦後アメリカ合衆国は唯一の超大国になったが、ヨーロッパ諸国や日本とも競合し、さらには中国やインドの経済大国化による挑戦も受けている。
- ③ 2001年に成立したブッシュ政権は、保守的な倫理観を掲げるキリスト教右派勢力との連携を強めた。
- ④ アメリカ合衆国はミサイル防衛(MD)政策を推進していたが、オバマ政権が誕生すると、ロシアなどから批判を受け、同政策を取りやめる方向性を示した。



**E** アジア・太平洋地域の経済は急速に発展しており、国際的な分業も進んでいる。中国は世界第2位の経済大国となっている。

- ① すでに1970～1980年代には途上国で急速に工業化が進み、韓国・台湾・シンガポールなどはアジアNIESと呼ばれた。
- ② ASEANなどの地域統合が進むとともにAPECなどの経済協力も進展している。
- ③ 経済の発展とともに政治の民主化も進み、台湾では1987年に戒厳令が解除された。
- ④ 韓国では軍部政権が続いていたが、1992年の選挙で文民政治に戻るとともに、金大中が大統領になった。

**F** 冷戦終結後、世界が平和になると期待されたが、現実にはやはり国際紛争が発生したり、民族や宗教の違いによる内戦が多く見られた。

- ① 1991年にユーゴスラヴィア連邦からクロアチア・スロヴェニアが分離を宣言すると、セルビアとの内戦になり同連邦が解体した。
- ② 独立国家共同体が結成されソ連邦が解体したが、1994年北カフカス地域のチェチェンでは、独立を求めてロシアとの紛争が起こった。
- ③ アフリカでは内戦が多発し、1991年から92年にはソマリアで内戦が起き、また1994年にはルワンダでの内戦で、約100万人が犠牲になったといわれている。
- ④ 1990年イラクはクウェートに侵攻したが、翌年1月には国連の決議に基づいてアメリカ軍を中心とする国連軍が組織され、その反撃にあい撤退した。

(ロ) 以下の**G**～**J**に関する記述の中で、最も適切な文章の記号①～④を解答欄にマークしなさい。

**G** 先進国の工業化に加えて、発展途上国の急速な工業化によって環境汚染が進み、地球環境への関心が高まっている。

- ① 1997年には先進国の温室効果ガス削減の目標値を設定した京都議定書が採択されたが、後にアメリカ合衆国は同議定書から離脱した。
- ② 1985年にはオゾンホールが発見されたりしたため、地球温暖化の危険が指摘され、1992年にはアルゼンチンで「地球サミット」が開かれた。
- ③ 地球温暖化の影響で干ばつや天候不順が多く見られるようになり、1990年以降世界の穀物生産量が減少に転じている。
- ④ 1973年の石油危機が広まる中で、国連人間環境会議が開催され、国際環境計画が発足した。

**H** 1953年に遺伝子の基本となるDNAの構造が解明され、それ以降分子生物学が発達して大きな成果をもたらしている。

- ① 1973年には遺伝子組み換え技術が開発され、動植物の品種改良が容易になって、遺伝子操作を受けた動植物が生態系をもっばら改善すると期待されるようになった。
- ② 1990年はじめからは人間の遺伝子配列の解読をめざすヒトゲノム計画が始まり、現在解読が進められている。
- ③ 1990年代末には、同一の遺伝子を持つ生命の誕生を可能にするクローン技術が羊や牛に応用されたが、人間への応用に関しては生命倫理上の問題をめぐり激しく議論されている。
- ④ 遺伝子操作によってペニシリンが作られ、抗生物質が製造できるようになった。現在では難病を治療する医薬品の開発が進められている。

**I** 世界経済はインターネットの普及など I T 革命の影響を受けグローバル化が進み、世界経済は一体化が進んでいる。

- ① 1997 年タイや韓国など東アジアで通貨危機が発生したが、日本やアメリカからの援助によって他地域への拡大を防ぐことができた。
- ② 各国は国際市場で競争に勝つため国内市場の活性化をめざし、「大きな政府」の考えを維持して公共事業を推進した。
- ③ EU では 2002 年から、一般市民の取引にもユーロが導入されたが、依然としてイギリスやスウェーデンでは自国通貨が使用されている。
- ④ 国際的な経済金融問題を協議するため、G 7(先進 7 カ国蔵相・中央銀行総裁会議)が廃止され、新たに G 20 が設置されて 2008 年に初めて首脳会議が開かれた。

**J** 科学技術の発達や I T 革命は現在の私たちの生活に大きな影響を与えており、産業構造もサービス産業が優位を占めるようになった。

- ① コンピュータは原子爆弾製造のために、第二次世界大戦中のアメリカ合衆国で開発が始まった。
- ② インターネットはアメリカ合衆国で軍事技術開発にあっていた科学技術者間の通信手段として発達した。
- ③ アメリカ合衆国はすでに第二次世界大戦中に、人類史上初めてロケットやジェット機の開発と実用化に成功していた。
- ④ 宇宙開発では旧ソ連が先行し、1957 年に人工衛星のスプートニク 1 号の打ち上げに成功して、宇宙飛行士が人類初めて宇宙空間を飛行した。